

- 上野図書館 ☎ 21-6868
- いがまち公民館図書室 ☎ 45-9122
- 島ヶ原公民館図書室 (島ヶ原会館内) ☎ 59-2291
- 阿山公民館図書室 (あやま文化センター内) ☎ 43-0154
- 大山田公民館図書室 (大山田教育センター内) ☎ 47-1175
- 青山公民館図書室 ☎ 52-1110

# 図書館だより

## Library Information

### ★新着図書紹介 (上野図書館)

#### ■一般書

『いのちの一句  
がんと向き合う言葉』  
いのちの歳時記編集委員会／著  
「赤とんぼじっとしたまま明日どうする」－渥美清。俳優や作家などが経験者が詠んだ俳句や、がんにまつわるエピソードを集めた本です。また、一般のがん経験者やその家族などから公募した俳句も収録しています。

#### ■一般書

『世界遺産ナスカの  
地上絵完全ガイド』  
地球の歩き方編集室／著  
ペルーの砂漠地帯で見ることのできるナスカの地上絵は、約 2,000 年も前に描かれたものです。謎に満ちた巨大な地上絵の解説のほか、土器や装飾品などナスカ時代の文化を幅広く紹介しています。

#### ■児童書

『子どもと楽しむ  
バルーンアート』  
大石 亜由美／著  
カラフルな風船をふくらませて、ひねったり、結んだり…。あつという間にかわいい動物や花、果物のできあがり！作って楽しい、飾って楽しいバルーンアートの例がたくさん載っています。



#### ■絵本

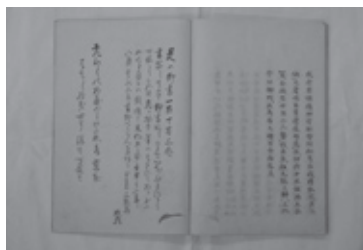
『ふつうの子にできる  
すごいこと』  
ガス・サンデム／編著  
熱帯雨林を守るために、1,300kmの道のりを歩く、海ガメを救うためにビニール袋の使用削減を訴える…。ごくふつうの子もたちが、大人も驚くようなすごいことを成し遂げた 29 の実話をまとめた本です。

『いがまち公民館図書室からのお知らせ』 蔵書整理のため、1月～2月末まで休室させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

### 1月の読み聞かせ

開催日	会場	時間	催物	*は読み手
5日(水)	ふるさと会館いが小ホール	10:30～1時間程度	絵本の時間	
8日(土)	上野図書館 2階視聴覚室	14:00～30分程度	おはなしの会	
16日(日)	阿山公民館図書室読み聞かせ室	10:30～30分程度	読み聞かせ会	*読み聞かせボランティア「はあと&はあと」
18日(火)	阿山公民館図書室読み聞かせ室	10:30～30分程度	読み聞かせ会	*読み聞かせボランティア「はあと&はあと」
19日(水)	青山公民館図書室絵本のコーナー	10:30～30分程度	大きな絵本の読み聞かせ会	
19日(水)	上野図書館 2階視聴覚室	14:00～30分程度	えほんの森	*読み聞かせボランティア「よもよも」
22日(土)	上野図書館 2階視聴覚室	14:00～30分程度	おはなしの会	
23日(日)	上野図書館 2階視聴覚室	13:30～15:00	おはなしの世界講演会	*えほんとおそぼう「まんま」
29日(土)	大山田公民館図書室えほんのへや	10:30～30分程度	おはなしたいむ	*おはなしボランティア「きらきら」
2月2日(水)	ふるさと会館いが小ホール	10:30～1時間程度	絵本の時間	

★絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします



#### ▲『伊賀国式社考』奥書部分

賀国 1冊で、伊  
究の書物全  
著者とされ  
る神社史研  
藤堂元甫の  
暦初年頃の  
社考』は宝  
「伊賀国式  
社考』は宝  
初年頃の  
著者とされ  
る神社史研  
究の書物全  
1冊で、伊  
賀国の式内

伊賀市の文化財 55  
県指定有形文化財(典籍)  
『三國地志』と『伊賀国式社考』  
江戸時代中期の伊賀城代家老であつた藤堂元甫らにより編纂された書物に『三國地志』があります。これは、伊賀・伊勢・志摩の3国にわたる地誌書で、全112冊(図譜4帖24冊)からなり、県内の近世地誌を知る上で貴重な資料です。  
『三國地志』は宝暦13年(1763)に完成し、一本を藩公へ、一本を元甫の属した采女家に所蔵したとされていますが、いずれも現存していません。原本がない今、全巻全冊が揃い、図譜も完備しているのは、伊賀市上野図書館に所蔵する転写本のみで、この転写本は昨年、県指定有形文化財(典籍)に指定されました。  
この転写本『三國地志』と一緒に保管され、同時に附として指定された書物が『伊賀国式社考』です。

社についての考察が中心です。  
『伊賀国式社考』には、興味深い奥書があります。そこには、「百十有三卷」を「文化九とせ」に転写したと記されています。

「百十有三卷」は、『三國地志』と『伊賀国式社考』を足した巻数です。これは、転写された際に、『三國地志』と『伊賀国式社考』が一連の書物(別巻)として扱われていたことを窺わせます。2つの書物の関係性は、『伊賀国式社考』が先に成立し、『三國地志』神祠篇を作成する際に、この『伊賀国式社考』を参照したものと考えられます。このほかにも、奥書からは、上野図書館が所蔵する『三國地志』の文化9年(1812)という転写時期や、作成の経緯を知ることが出来ます。

転写本の作者は、これらの書物を転写し終えた文化9年には、87歳になつていたようです。書写の命令を固辞するのも恐れ多いので、老いて拙くなった筆で、月日を重ねながら書き終えたことが奥書に記されています。奥書の最後は、「老らくのあやめもわかぬ水茎をはてしなき世に流す可畏さ」の一文で閉じられています。

著者だけでなく、書物を転写する人物の功績があつて、現在も我々は多くの古書を目にすることが出来ます。

生涯学習課文化財係  
☎ 22・9681 FAX 22・9691